



# 青柳園だより

2024年  
6月号

文京区立青柳幼稚園

## 楽しい！できた！を積み重ねて

主任 樋谷 桃代

入園、進級して2か月が経とうとしています。それぞれが新しい園生活に慣れ、伸び伸びと遊んでいる姿が見られています。

4歳児もも組は、入園当初は年長児に身支度を手伝ってもらっていましたが、今では自分で表示を見ながら一つ一つチェックして取り組むようになりました。先生が見守ったり声を掛けたりすることで、子どもたちは安心して自分のしたい遊びをしたり、今まで知らなかった楽しい遊びを見付けたりするなど、遊びの場も広がっています。



今まで虫を触ったことのなかった子が先生にダンゴムシを捕まえてもらってカップに入れたり、丸まったダンゴムシを手の平に乗せてもらったりすることを繰り返すうちに触れるようになり、「また明日も遊びたい」と嬉しそうです。次の日は「自分で捕まえられた！」「こんなにたくさん捕まえられた！」とカップの中のダンゴムシをじっくり見たり、「また明日遊ぼうね！」と、もといた場所に返したり等、興味や遊びが広がりました。また、触れない子には、紙を使ってダンゴムシを作れるように材料を用意し、部屋では自分で作ったダンゴムシに愛着をもってごっこ遊びを楽しむ姿も見られました。そんなもも組の様子がゆり組の子どもたちはとても気になり、頻繁にもも組の保育室を覗いています。自分が手伝った友達のその後の様子が気になっているのか、今年の自分を思い出しているのでしょうか。



5歳児ゆり組は、毎日のお休み調べや動物の世話など、当番活動を頑張っています。その他にも少人数で生活グループの名前決めや、こいのぼり作り、大きな木の絵、水族館ごっこ等友達と相談したり、協力したりしながら進める活動を行っています。一つの物や場を友達と一緒に作り上げるためには、お互いの考えややりたいことを伝え合わなければ始まりません。また、その中では自分の意見を言うことも大切だけれど相手の考えを聞きながら進めることも大切です。子どもたちは今、まさにそれを体験しているところです。友達の考えを聞くことで新たな気付きもあり、考え、学ぶ機会となり活動や遊びがさらに充実していきます。本物らしくしたいという思いをもって友達と協力したり、夢中になって試行錯誤しながら作り上げたりし、「楽しい！できた！」と実感する体験を重ねることが学習としての学びの基礎にもなります。

幼稚園では、大人の言葉掛けや動き、環境の作り方で、子どもがどう育つか、子どもたちにとって大事なことは何かをしっかりと考えて計画的に活動を進めていきます。一つ一つの経験が楽しい気持ちや達成感とともに積み重なっていくように子どもたちを支えていきたいと思っています。

